

海軍公報

第二千四百七十六號

海軍大臣官房

昭和十年六月一日(主)

○辭令

○昭和十年六月一日

任海軍書記
給六級棒

秦 一三

(各通)

渡利 逸郎

千代田 政二

飯野 武

任海軍技手

給七級俸

奧海軍工廠附ヲ命ス

海軍書記 秦 一三

海軍技手 渡利 逸郎

(各通)

同 千代田 政二

同 飯野 武

海軍火藥廠附ヲ命ス

海軍艦政本部造船監督助手

海軍技手 山本 五郎

海軍艦政本部附ヲ命ス

海軍艦政本部勤務同 池淵 榮

横須賀海軍工廠勤務ヲ命ス(以上訪海軍省)

第一課勤務ヲ命ス(二十五日海軍省教育局) 海軍中佐 升田 仁助

海軍大臣官房ニ於ケル事務囑託ヲ解ク(二十五日海軍大臣官房) 勳七等 木村 弘一

○雜款

○出發

英國 駐在 海軍少佐 山本 善雄

六月十日 午後零時 東京發

獨國 駐在 海軍機關少佐 奧田 增藏

六月十三日 同十三日 神戶發

海軍公報 第二千四百七十六號 昭和十年六月一日

五三三

海軍公報 第二千四百七十六號 昭和十年六月一日

五三四

○正誤
○
昨三十一日辭令欄下段十行目「荻山直造」ハ「荻山眞造」ノ誤

○艦船所在

指定ヲ要セズ

○六月一日午前十時調

【横須賀】

陸奥、夕張▲、金剛▲、木曾、▷那珂、春日、比叡、□山城、五十鈴、▷多摩、▷鳳翔、□島海、摩耶、愛宕、▷赤城、神威

沖風、峯風、矢風、□松風、春風、旗風、朝風、□響、雷、電、狭霧、□有明、夕暮

□伊二三▲、伊二四▲、□伊三、伊一、伊二、伊四

富士▲、尻矢、知床、鳴戸

(鈴谷)

【長浦】▷嚴島

□潮、朧、曙、□秋風、羽風、太刀風、帆風、□天霧、朝霧、夕霧

呂五四、呂五五、呂五六、□呂五七、呂五八、呂五九、□伊五、伊六

□掃六、掃五、掃一、掃三、掃二、掃四

【横濱】

高雄▲

□漣、曉

【浦賀】

(時雨)

【二見】

那智

【大湊】

波風

【釧路】

大泊 駒橋 長門▲、矢矧、韓崎、日向▲、加古、勝力、大鯨、扶桑、▷伊勢、龍驤、▷青葉、古鷹、衣笠、▷神通、長鯨

□夕顔、菊、葵、□初雪、白雪、□白雲、薄雲、叢雲、□綾波、浦波、敷波、□東雲、磯波、吹雪

呂一七、呂一八、呂一九、呂五一、呂五三、□呂六八、呂六三、呂六四、呂五二、伊五一、伊六八、□伊二一、伊二三、□伊五七、伊五六、伊五八、伊五四、伊五三、伊五五

□伊七、掃八、掃九、掃一○

石廊、攝津、襟裳、隠戸、間宮▲

(最上)、(呂三三)

【和歌浦】大井

【大阪】▷彌生、睦月、如月、卯月

【神戸】(伊六九)、(伊七一)、(伊七三)

【飾磨】□呂二八、呂二七

【鞆】▷天龍

【相生】迅鯨

【小松島】▷白鷹

□掃一三、掃一四、掃一五、掃一六

【江田内】平戸

海軍公報 第二千四百七十六號 昭和十年六月一日

五三五

海軍公報

第二千四百七十七號

昭和十年六月三日(月)
海軍大臣官房

○辭令

海軍兵學校ニ於ケル教授ヲ賜託ス

稻葉 榮次

但シ報酬年額千貳百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇ト

ス(二十五日海軍省)

○雜款

○特務艦進水

横須賀海軍工廠ニ於テ建造中ノ特務艦劍崎一昨一日午後五時四十五分進水セリ

○職務代理

海軍主計少佐長井善治練習艦隊主計長缺員中同職代理ヲ命ス(前練習艦隊)

退役海軍軍醫少將從四位勳三等宮尾信治去月二十
六日卒去月二十八日佐世保市下京町西本願寺ニ
於テ佛式ニ依リ葬儀執行セリ

海軍公報 第二千四百七十七號 昭和十年六月三日

五三七

○艦船所在

指定ヲ要セズ

○六月三日午前十時調

【横須賀】

陸奥、夕張、金剛、木曾、那珂、比叡、那智、口山城、五十鈴、多摩、鳳翔、
口鳥海、摩耶、愛宕、赤城、神威

沖風、峯風、矢風、松風、春風、旗風、
朝風、響、雷、電、狭霧、有明、夕暮、
伊二三、伊二四、伊三、伊一、伊二、
伊四

富士、尻矢、知床、鳴戸
(鈴谷)、(劍崎)

【長浦】

嚴島、潮、朧、曙、秋風、羽風、太刀風、
帆風、天霧、朝霧、夕霧

呂五四、呂五五、呂五六、呂五七、
呂五八、呂五九、伊五、伊六、
掃六、掃五、掃一、掃三、掃二、掃四

【横濱】

高雄、
漣、曉

【浦賀】

(時雨)

【館山】

澤風

【青森】

波風、
大泊

【釧路】

駒橋、長門、矢矧、韓崎、日向、加古、勝力、
大鯨、扶桑、伊勢、龍驤、青葉、古鷹、
衣笠、神通、長鯨

夕顔、菊、葵、初雪、白雪、白雲、薄雲、
叢雲、綾波、浦波、敷波、東雲、磯波、
吹雪

呂一七、呂一八、呂一九、呂五一、
呂五三、呂六八、呂六三、呂六四、
呂二八、呂二七、伊五二、伊五一、
伊六八、伊二一、伊二二、伊五七、
伊五六、伊五八、伊五四、伊五三、
伊五五

掃七、掃八、掃九、掃一〇、
石廊、攝津、襟裳、隠戸、朝日、間宮、
(最上)、(呂三三)

【串本】

大井

【大阪】

彌生、睦月、如月、卯月

【神戸】

(伊六九)、(伊七二)、(伊七二)

【相生】

迅鯨

【御坊】

白鷹、掃一三、掃一四、掃一五、掃一六

【宇品】

天龍

【江田内】

平戸

【舞鶴】

吾妻、川内

海軍公報 第二千四百七十七號 昭和十年六月三日

五三九

呂若竹、吳竹、旱苗

呂二六

友鶴

(鴻)

【佐世保】

加賀、霧島、宇治、榛名、八重山、能登呂、妙高、北北上、常磐、長良、名取、阿武隈、由良

梨、竹、榊、桃、柳、櫻、檜、菊月、三日月、初霜、初春、子日、若葉、長月、水無月、皐月、文月、疾風、追風、朝風、夕風、楡、柿

呂三五、呂二九、呂三〇、呂三一、呂三二、呂六〇、呂六一、呂六二、呂六六、呂六五、呂六七、伊六五、伊六六、伊六七、伊六〇、伊五九、伊六三、伊六四、伊六一、伊六二

初雁、真鶴、千鳥、敷島、鶴見、室戸

(白露)、(伊七〇)

羽黒、足柄、出雲

夕月、望月

(三隈)

鎮海、葦、菱

馬公、龍田

馬公港外、芙蓉、朝顔、刈萱、蓮、蓼、蓬

【旅順】

青島、球磨、熱海

【上海】

安宅、熱海

【南京】

鳥羽

【九江】

榭、對馬

【漢口】

榭、對馬

【長沙】

二見

【宜昌】

比良

【重慶】

堅田

【馬尾】

灘風

【廈門】

沙風、夕風

【汕頭】

島風

【廣東】

嵯峨

【作業地】

沼風、野風、神風、膠州、早納

【航海中】

佐多 (五月十五日佐世保發一羅府へ)

洲崎 (五月二十日作業地發一「ホルル」へ)

淺間、八雲 (二日「スバ」發一「アピア」へ)

保津、勢多 (二日宜昌發一重慶へ)

鬼怒 (二日危川發一萩へ)

浦風 (二日宜昌發一漢口へ)

春日 (三日横須賀發一「バラオ」へ)

野島 (三日佐世保發一馬公へ)

(部内限一頁)

海軍公報

第二千四百七十八號

昭和十年六月四日(火)

海軍大臣官房

○雜款

○司令驅逐艦變更
第二十七驅逐隊司令ハ昨三日司令驅逐艦ヲ一時董ヨリ
革ニ變更セリ

○特務艦知床行動豫定

地名	名	着	發
須賀	賀	六月九日	六月八日
古屋	屋	六月九日	六月十日
吳	保	六月十二日	六月十三日
佐	保	六月十五日	六月十七日
上	海	六月十九日	六月二十一日
佐	保	六月二十三日	六月二十四日
吳	保	六月二十五日	六月二十七日
横須賀	賀	六月三十日	

○郵便物發送先
軍艦神威宛

六月八日迄ニ到達見込ノモノハ

横濱市神奈川區橋本町
淺野造船株式會社船渠

其ノ後ハ

横須賀

特務艦知床宛

六月七日迄ニ到達見込ノモノハ	横須賀
同 十一日迄ニ	吳
同 二十三日迄ニ	佐世保
同 二十六日迄ニ	吳
其ノ後ハ	横須賀

○正誤

⑤

昨三日本欄進水文中「劍崎」ハ「劍埼」ノ誤

海軍公報 第二千四百七十八號 昭和十年六月四日

五四一

○艦船所在 ▲印ハハハ★

○六月四日午前十時調

【横須賀】

陸奥、夕張、金剛、木曾、那珂、比叡、那智、山口城、五十鈴、鳳翔、口鳥海、摩耶、愛宕、赤城、神威、沖風、峯風、矢風、松風、春風、旗風、朝風、響、雷、電、漣、曉、有明、夕暮、伊二三、伊二四、伊三、伊一、伊二、伊四、富士、尻矢、知床、早瀬、鳴戸

【長浦】

嚴島、潮、朧、曙、秋風、羽風、太刀風、帆風、天霧、朝霧

【横濱】

呂五四、呂五五、呂五六、呂五七、呂五八、呂五九、伊五、伊六、掃六、掃五、掃一、掃三、掃二、掃四、高雄、多摩

【浦賀】

狭霧、(時雨)

【館山】

澤風、伊東、夕霧、大泊

【青森】

波風、駒橋、長門、矢矧、韓崎、日向、加古、勝力、大鯨、天龍、扶桑、伊勢、龍驤、青葉、古鷹、衣笠、神通、長鯨、夕顔、菊、葵、初雪、白雪、薄雲、叢雲、綾波、浦波、敷波、東雲、磯波、吹雪

【吳】

呂一七、呂一八、呂一九、呂五一、呂五三、呂六八、呂六三、呂六四、呂二八、呂二七、伊五二、伊五一、伊六八、伊二一、伊二二、伊五七、伊五六、伊五八、伊五四、伊五三、伊五五、掃七、掃八、掃九、掃一〇、石廊、攝津、襟裳、隠戸、朝日、間宮、(最上)、(呂三三)

【勝浦】

大井、(伊六九)、(伊七一)、(伊七二)

【神戶】

彌生、睦月、如月、卯月、(伊六九)、(伊七一)、(伊七二)

【相生】

迅鯨、山良内、白鷹、掃一三、掃一四、掃一五、掃一六

【江田内】

平戸、吾妻、川内、若竹、吳竹、早苗

海軍公報 第二千四百七十八號 昭和十年六月四日

五四三

【萩】 鬼怒
 【佐世保】 加賀、霧島、宇治、榛名、八重山、妙高、
 ▶常磐、▶長良、名取、▶阿武隈、▶由良▲
 梨、竹、榎、桃、柳、檜、楡、▶菊月、三日月、
 ▶初霜、初春、子日、若葉、▶長月、水無月、
 ▶皐月、文月、▶疾風、追風、朝風、夕風、
 ▶楡、柿
 呂二五、 呂二九、 呂三〇、 呂三一、
 呂三二、 ▶呂六〇、 呂六一、 呂六二、
 ▶伊六五、 伊六六、 伊六七、 ▶伊六〇、
 伊五九、 伊六三、 ▶伊六四、 伊六一▲
 伊六二▲
 敷島▲
 (白露)、(伊七〇)
 【寺島水道】▶北上、能登呂
 ▶呂六六、呂六五、呂六七
 ▶初雁、真鶴、千鳥
 ▶羽黒▲、足柄、出雲
 夕月、望月
 (三隈)
 【馬公】▶龍田
 【馬公海外】▶芙蓉、朝顔、刈萱、▶蓮、蓼、蓬
 【大連灣】▶藤、萩、葛、蕪

【青島】 球磨
 【上海】 ▶安宅、熱海
 【南京】 鳥羽
 【九江】 梅
 【漢口】 栗、磐手、對馬
 【長沙】 二見
 【宜昌】 比良
 【重慶】 堅田
 【馬尾】 灘風
 【廈門】 ▶沙風、夕風
 【汕頭】 島風
 【廣東】 嵯峨
 【作業地】 ▶沼風、野風、神風、
 膠州
 【航海中】
 佐多 (五月十五日佐世保發—羅府)
 洲崎 (五月二十日作業地發—「ホノルル」)
 ▶淺間、八雲 (二日「スズ」發—「アピア」)
 ▶保津、勢多 (二日宜昌發—重慶)
 ▶浦風 (二日宜昌發—漢口)
 ▶春日 (三日橫須賀發—「バラオ」)
 ▶葦、菱、董 (三日鎮海發—尾崎灣)
 野島 (三日佐世保發—馬公)
 鶴見 (三日佐世保發—橫須賀)
 青島 (三日旅順發—鎮海)
 室戸 (四日佐世保發—吳)

(附錄十六頁、部内限一頁)

海軍公報 附録

昭和十年六月四日(火)
海軍大臣官房

○ 雜款

○ 圖書

去ル四月中納庫セル圖書左ノ如シ(海軍文庫)

和漢書ノ部

△五六一 航海圖表

東洋燈臺表 上卷 昭和九年十二月 水路部編 昭和九
十日調査 東京 水路部 P 三三四

△五六二 航海報告

昭和八、練習艦隊記事 練習艦隊司令部編 昭和九
九年度 一〇〇三九

△五七一 航空圖表

昭和 太陽位置表 水路部編 昭和九 東京 水路部 P 三三三

昭和 太陰位置表 水路部編 昭和九 東京 水路部 P 三三三

昭和 航空年表 水路部編 昭和九 東京 水路部 P 三三四

〇一〇 海 事

昭和九、日本船舶名簿 神戸海運集會所出版部編 昭和九
神戸海運集會所 P 一〇〇三三

〇二〇〇 陸 軍

昭和 帝國及列國の陸軍 陸軍省編 昭和十
十年版 P 三三七

〇四一〇 水路誌

南支那海水路誌 水路部編 昭和十 東京 水路部 P 三三五

北海道樺太南部沿岸水路誌 水路部編 昭和十
第一卷 追補第一 東京 水路部 P 三四五

ニュージールランド沿岸水路誌 水路部編 昭和十
第一卷 ニュージールランド北島 東京 水路部 P 三五六

アフリカ東岸水路誌 水路部編 昭和十
第二卷 ケリマネ至ハフン岬 東京 水路部 P 三五六

ベルガン灣水路誌 水路部編 昭和九 東京 水路部 P 三五六

總記、セイロン島西岸南部、南岸及東岸
印度半島東岸、ビルマ沿岸北部

〇六一〇 精神教育

御歴代詔勅集 大日本道協會編 昭和九
東京 大日本道協會 P 九三七

〇六〇〇 歴史—一般

〇六〇〇 歴史—一般

〇六〇〇 歴史—一般

日本死刑史 布施綱平著 昭和八 東京 日本書院	10357	三、作業管理	
刑法論攷 飯塚敏夫著 昭和九 東京 松華堂書店	10358	四、勞務管理	
債權法提要 三浦信三著 昭和九、十 東京 有斐閣	10351	五、賃銀制度	
民法總則提要 三浦信三著 昭和八、九 東京 有斐閣	10353	六、原價計算	
物權法提要 三浦信三著 昭和九、十 東京 有斐閣	10355	七、豫算管理	
全擔保物權法 三浦信三著 昭和八 東京 有斐閣	10355	八、圖表による管理	
民事訴訟法 長島毅共著 昭和七 森田豊太郎 東京 清水書店	10356	九、會社業績の検討	
法令集 三省堂編輯所編 昭和十 東京 三省堂	10333	一〇、産業關係資料	
新六法全書 (参照條文及事項索引附) 三省堂編輯所編 昭和十 東京 三省堂	10333	最新營業原價計算法 (商工經營講座叢書第三、四輯) 宇野信三著 昭和十 東京 日本能率技術協會	10377
米國政治經濟研究 田刈爲彦著 昭和九 東京 立命館出版社	9913	工場名簿 (昭和八年末現在) 臺灣總督府殖産局編 昭和十	P 3353
經營管理 矢持輝治編 昭和九 東京 マネジメント社	10376	日本工業政策 (現代日本工業全集 第三卷) 吉野信次著 昭和十 東京 日本評論社	10330
一、企業管理組織		鐵道の知識 (旅客、手小荷物篇) ダイヤモンド社著 昭和九 東京 ダイヤモンド社	10331
二、材料管理		鐵道料程及乘車貨計算便覽 附 東京市ト各地方局及各市間里程一覽 附 旅費概一覽 渡邊管治編 昭和十 東京 帝國地方行政學會	10345
		II 二二〇 統計諸表 朝鮮總督府選信局編 昭和十	P 3340
		朝鮮選信部 職員及傭人衛生統計 昭和十	

海軍公報 附錄

三

昭和八年	人口動態統計	内閣統計局編	昭和九	P 三三九七
第十次	農林省統計表	(昭和八年) 農林大臣官房統計課編	昭和九	P 三三五三
昭和八年	樺太廳統計書	樺太長官官房調査課編	昭和九	P 三三六五
昭和八年	農事統計表	農林大臣官房統計課編	昭和十	P 三三六六
昭和九年	臺灣鑛業統計	臺灣總督府鑛務局鑛務課編	昭和十	P 三三七〇
昭和八年	關東廳第二十八統計書	關東廳編	昭和九	P 三三三〇
昭和十年	海運年鑑	津編 修編	昭和十	P 三三三五
昭和八年	海軍省醫務局第四十六次報告	海軍省醫務局編	昭和十	P 三三三九
昭和五年	簡易保險局統計年報	簡易保險局編	昭和十	P 三三五〇
第五十回	日本帝國統計年鑑	内閣統計局編	昭和九	P 三三六八
	I 二二〇 日本地誌—市町村	東京 東京統計協會		
	全國交通	附全國尋常高等小學校名錄		
	附改正市町村名大鑑	和樂路屋編	昭和十	自一〇三六
	和樂路屋編	大阪 和樂路屋		至一〇三八三
	I 一七〇 日本地誌—事情			
昭和十年	北海道概況	北海道廳編	昭和十	P 三三四四
昭和十年	朝鮮事情	朝鮮總督府編	昭和十	P 三三九四
	I 六〇〇 地 圖			
	最新大日本全圖	和樂路屋編	大阪 和樂路屋	A 七〇七
	新最近日本地圖	三省堂編輯所編	昭和十	自 A 七〇三
	J 一〇〇 數 學	東京 三省堂		至 A 七二〇
	J 二二二 力 學	的場哉著	昭和三	東京 日本度量衡協會
	計量器學			一〇〇三六
	應用彈性學	(最近土木工學名著翻譯)		
	自第一卷	ジェイブレスコット原著	昭和九、十	一〇二二七
	至第三卷	山岡包郎譯	東京 コロナ社	
	J 三二〇 機械工學			
	自動車保存取扱法教程	(自動車之部) 同附圖	昭和六	自一〇二二九
	陸軍自動車學校編			至一〇二四九
	自動車保存取扱教程	(乘用自動車之部) 同附圖	昭和六	自一〇二六九
	陸軍自動車學校編			至一〇二八六
	最新知識 一般自動車講義	奥泉欽次郎著	昭和九	自一〇二八九
	岡澤本位	東京 德文堂書店		至一〇三〇八
	說明 自動車故障見立修理法	小山誠一著	昭和十	自一〇三〇九
	東京 德文堂書店			至一〇三二一
	J 三三三 土 木			
	近世道路工學	(最近土木工學名著翻譯)		
	自第一卷	エー、ノイマン原著	昭和九	一〇三二一
	至第二卷	南保賀譯	東京 コロナ社	

鋼橋の理論と計算 (最近土木工學名著翻譯) 自第一卷 フリドリドレヒ、ブライヒ原著 昭和九 至第五卷 奥田秋夫外共譯 東京 コロナ社 一〇三二	下水道及び汚水處理法 (最近土木工學名著翻譯) 自第一卷 イーバビット原著 昭和八、九 至第四卷 高谷高一郎譯 東京 コロナ社 一〇三三	土壓及び地盤の支持力 (最近土木工學名著翻譯) 自第一卷 エツチ、クレイ原著 昭和九 至第三卷 鶴岡義吉共譯 東京 コロナ社 一〇三四	基礎工 (最近土木工學名著翻譯) 自第一卷 プレンネツケ、ロマイヤイ原著 至第五卷 太田尾廣治外共譯 昭和九 東京 コロナ社 一〇三五	實踐上水道 (最近土木工學名著翻譯) 自第一卷 アメリカ水道協會原著 自昭和八 至第四卷 岡本東一郎譯 至昭和十 東京 コロナ社 一〇三六	J三三三、一 コンクリート工學 コンクリート及鐵筋コンクリート標準示様書 鐵筋コンクリート構造計算規程 高杉造酒太郎 昭和十 東京 建築學會 自一〇三六 至一〇三六	J三三三、二 コンクリート工學 コンクリート及鐵筋コンクリート標準示様書解説書 鐵筋コンクリート構造計算規程 高杉造酒太郎 昭和十 東京 建築學會 自一〇三七 至一〇三六	J三三三、三 建築 鐵骨鐵筋建築構造圖集 桂斷而岡、桂梁接合部詳細圖 高杉造酒太郎編 昭和九 東京 建築學會 A七五	メトリル 木造規準圖表 高杉造酒太郎編 昭和十 法ニヨル 東京 建築學會 A七〇六	建築構造力學 武藤 清共著 昭和七 辻井發二共著 東京 大日本工業學會 一〇三九	建築工事標準仕様書記入例 高杉造酒太郎編 昭和十 東京 建築學會 自一〇三七 至一〇三七	K一〇〇 哲學 苦よりの離脱 (運命苦を拓く道) 本莊可宗著 昭和九 東京 千倉書房 一〇三七	K一〇三 國體 御國體憲法の根本原理 川而凡兒著 昭和十 東京 社團法人 後威會 一〇三八	K三二〇 教育學 教育科學 (岩波講座) 岩波書店編 東京 岩波書店 一〇二六	朝鮮の教育 第一冊 武部欽一著 體育とスポーツの教育 大谷武一著 運動心理學 松井三雄著 體育生理學 小笠原道生著 公民教育 泰山作樹著 道徳と教育 佐々木秀一著 教育養成論 横山榮次著 就學前の教育 倉橋惣三著 ドワクローリーの學校 飯田晃三著 ロレンヌの學校 渡邊 誠著 獨逸の教育 伏見猛彌著 個性調査 岡部彌太郎著
-------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------	---------------------------------------------	----------------------------------------------------	----------------------------------------------------	--------------------------------------------------	-----------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

海軍公報 附録

五

文化教育學 日本に於ける心理學の發達	長田 新著 松本亦太郎著
第二册 現象學的的教育學 複合心理學と形態心理學 心理學研究法 性 格 學 社 會 型 英吉利の教育制度 教師の心理 圖書館教育 臺灣の教育 日本數學教育史 國語及び國字問題シムボジウム	勝部謙造著 矢田部達郎著 増田惟茂著 正木 正著 松本潤一郎著 富島 清著 宗像誠也著 今譯慈海著 山口重知著 三上義夫著 山田孝雄外共著
第三册 江戸時代以前の教育 人格學的的心理學と生命心理學 精神分析學 民族精神の發達 アボツツホルムの學校 ニールの學校 ラヂオト教育 小學校の數學 兒童の音樂的才能 綴り方の教育 職業調査 人事管理 郷土教育 小學校に於ける職業指導	高橋俊乘著 淡路圓治郎著 九井清泰著 桑田芳藏著 生井武久著 宮下正美著 多田不二著 安東壽郎著 高野 潤著 田中豊太郎著 狩野廣之著 増田幸一著 小川正行著 桐原葆見著 田邊壽利著
第四册 實踐主義の社會學	
實踐主義の倫理學 理解的社會學 精神の進化 田園學校 ドルトン、プランの學校 ウイネトカ、プランの學校 埃太利及びチエツコ、 スロウアキアの新學校 成人教育(並に勞務者教育) 我國の聲音教育 教育者の操るべき生命の範疇 男女共學のシムボジウム	松本潤一郎著 小松堅太郎著 黒田 亮著 田花爲雄著 田花爲雄著 石谷信保著 入澤宗壽著 小尾龍治著 菅原敬造著 伊藤猷典著 泰山作樹外共著
第五册 聾者と其の教育 適性検査 海軍の教育 實驗教育學 検査心理學と相關心理學 ソウエイト、ロシアの教育 共同社會學校 選拔考査法 教育診斷法 天才及び天才教育 治療教育學 聾兒の心理	川本宇之介著 淡路圓治郎著 廣瀬 豊著 上村福幸著 古賀行義著 瀧川岩男著 松月秀雄著 田中寛一著 大伴 茂著 天野利武著 三田谷啓著 丸山良二著
第六册 形式社會學及び關係社會學 唯物史觀とマルクス主義社會學 日本の教育 學校調査 保護少年	新明正道著 戸桐 潤著 龍山義亮著 千種圓爾著 池口尙夫著

第七冊
 保護教育
 數學と教育
 裁縫の教育
 現代産物と教育
 労働者教育運動
 障和運動と教育
 第七冊
 徳川時代の教育
 生物學的社會學
 日本社會史
 生産學校
 チャイドル、セントラード、スタイル
 盲人教育
 盲人の心理
 小學校の自然科學
 中等學校の自然科學
 都市教育
 國民道德論
 第八冊
 青年の精神
 類型學
 學校建築
 男子青年團
 女子青年團
 英語教育
 兒童の繪畫
 童話と童話による兒童觀察
 青年と哲學
 青年運動
 世界觀と教育
 教育學の本質

菊池俊諦著
 小倉金之助著
 山本キク著
 水野常吉著
 北岡壽逸著
 下村春之助著
 石川 謙著
 田邊壽利著
 土居喬雄著
 三木壽雄著
 原 俊之著
 秋葉馬治著
 梅津八三著
 栗山 重著
 川本宇之介著
 和辻哲郎著
 青木誠四郎著
 依田 新著
 古茂田甲午郎著
 田澤義編著
 下村壽一著
 岡倉山三郎著
 竹田俊雄著
 葛原 茲著
 安倍能成著
 立澤 剛著
 紀平正美著
 稻毛金七著

第九冊
 藝術心理學
 備教の倫理學
 身體の發育
 兒童の精神
 老年の教育
 モンテツォリーの學校
 商業の教育
 宗教教育
 兒童及び青年の宗教意識
 優生運動
 大學擴張運動
 基督教の世界觀と教育
 プロレタリア反宗教運動
 政治教育の問題シムボジウム
 第十冊
 理想主義の倫理學
 デュルケム派の社會學
 了解心理學と構造心理學
 瑞西の新學校
 遺傳及優生學
 博物館教育
 犯罪心理學
 歴史と教育
 兒童の自然觀
 感化事業
 家庭教育
 セツルメント
 神道の世界觀と教育
 倫理學と教育

相良守次著
 高田眞治著
 吉田章信著
 久保良英著
 橋 覺勝著
 平塚益徳著
 藤本幸太郎著
 淺野孝之著
 大場千秋著
 阿部文夫著
 阿部正直著
 岩下壯一著
 林 達夫著
 大島正徳外共著
 山本幹夫著
 牧野 巖著
 速水 滉著
 入澤宗壽共著
 渡邊 誠共著
 阿部文夫著
 棚橋源太郎著
 石井俊瑞著
 新見吉治著
 波多野完治著
 曾岡清男著
 倉橋徹三著
 末弘殿太郎著
 田中義能著
 西澤一郎著

海軍公報 附録

七

第十一冊 滿洲の教育

工業教育

學生の思想問題

外來思想と教育

師範教育の問題シムボジウム

社會過程

教師の成績評定

理想の教師

學科課程論

學級の形態

學級編制及び經營

經濟と教育

家事の教育

農業の教育

第十二冊

性教育の問題シムボジウム

書方の教育

音樂の教育

國語の教育

映畫と教育

民衆娛樂と教育

少年團

亞米利加の教育

心身の性別

作用心理學と素質心理學

聯想心理學と統覺心理學

心理學的社會學

日本に於ける教育の發達

性教育の問題シムボジウム

第十三冊

保々隆次著

秋保安治著

坂田萬一郎著

深作安文著

安藤正輔外共著

綿貫哲雄著

宗像誠也著

石谷信保著

阿部重孝著

兼子 宙著

清水甚吉著

泰山作樹著

大江スミ著

千葉敬止著

野上俊夫著

水島修三著

小松耕輔著

山本 鼎著

西尾 實著

星野幸雄著

權田保之助著

二荒芳徳著

高山 潔著

野上俊夫著

千葉胤成著

高木貞二著

岩崎一著

吉田熊次著

富田 修外共著

歐米教育史(古代及び中世)

歐米教育史(近世)

社會主義の倫理學

西洋社會史

教育行政

學校衛生

精神病理學

自然科學と教育

高等學校の自然科學

貧困兒童の身體發育

貧困兒童の身體發達

貧困兒童の教育

小學校教育の問題シムボジウム

第十四冊

日本教育史(明治以後)

わが國におけるマルクス思想研究の發展

佛敎の世界觀と教育

調 査 論

佛敎の世界觀と教育

兒童青年の道徳意識

女子教育

佛敎の倫理學

女學校教育の問題シムボジウム

第十五冊

日本音樂教育史

犯罪病理學

日本學生運動史

手工の教育

社會教育學概論

學習と疲勞

學習の過程

石山脩平著

入澤宗壽著

杉森孝次郎著

今井登志喜著

下村壽一著

岩原 拓著

中村隆治著

片山正夫著

津田 榮著

廣瀬 興著

三井 瑛著

椎名龍徳著

赤井米吉外共著

海後宗臣著

本多謙三著

福島政雄著

松壽泰嚴著

山口黎常著

牛島義友著

下田次郎著

宇井伯壽著

丸山大作外共著

兼常清佐著

吉益簡夫著

吉野作造著

岡山秀吉著

泰山作樹著

寺澤殿男著

青木誠四郎著

全應心理學	岩井勝二郎著
神道の倫理學	村岡典嗣著
中學校教育の問題シムボジウム	西村房太郎外共著
第十六册	
我國に於ける基督教主義學校に就いて	平塚益徳著
小學校及び中等學校の地理教育	石谷信保共著
兒童の數の意識	高木貫一著
言語と教育	城戸幡太郎著
精神治療學	奥田三郎著
伊太利の教育	渡邊 誠著
教育的環境學	山下俊郎著
教育科學と教育學	篠原助市著
入學試験の問題シムボジウム	岡部彌太郎外共著
第十七册	
潛革的に眺めたる寺小屋教育の概略	乙竹岩造著
教育指導及び職業指導	岡部彌太郎著
職業教育	木村正義著
學習の方法	木下竹次著
作業學校	竹井彌七郎著
佛蘭西の教育	飯田晃三著
基督教倫理學	石原 謙著
改革的教育學說	入澤宗壽著
勞作教育學	小林澄兄著
第十八册	
高等學校教育の問題シムボジウム	塚原政次外共著
女子高等教育の問題シムボジウム	横山榮次外共著
第十九册	
變應心理學	小熊虎之助著
言語心理學	三井 透著
教育本質論の發展	小西重直著
學生の思想運動と學校教育	溝淵進馬著
プロレタリア藝術教育	林 達夫著
小學校及び中等學校の歴史教育	中川一男著
地理と教育	佐藤 弘著
兒童の言語	松本金壽著
教授の原理と實際	佐藤熊治郎著
人間學	橋崎凌太郎著
機能心理學と行動心理學	高橋 穰著
現象學的社會學	藏内數太郎著
マルキシズムの世界觀と教育	貝塚友治著
哲學と教育	西田幾太郎著
哲學と宗教	西田幾太郎著
學習と性格	小野島右左雄著
陸軍の教育	永田鐵山著
實用主義の倫理學	白井成允著
自由教育及び行動教育	大淵基太郎著
青年教育	關屋龍吉著
教育財政	阿部重孝著
社會調査	戸田貞三著
公民教育學	眞田幸雄著
日本に於ける社會學の發達	高田保馬著
日本に於ける倫理學の發達	吉川靜致著
第二十册	
文化政策と教育	大澤 實著
歐米に於ける倫理運動	友枝高彦著
農村教育運動	留岡清男著
明治思想史	三宅雄二郎著
農村教育	小田滿三著
大學と哲學	城戸幡太郎著
法律と教育	穗積重遠著
兒童藝術	菅原敬造著

海軍公報 附錄

藝術と教育
精神診断學
低能児及び低能児教育
實験教授學
教育方法學概論
ニールの學校
學校組織
文化社會學
現象學派の倫理學
功利主義の道德
社會的教育學
教育研究法
教育測定學
中等學校及高等學校の教學
大學教育の問題シムボジウム

谷川徹三著
波多野完治著
青木誠四郎著
上村福幸著
佐々木秀一著
阿部彌太郎著
森岡常藏著
三木 清著
和辻哲郎著
高橋 穰著
城戸輔太郎著
阿部重孝著
岡部彌太郎著
阿部八代太郎著
今井登志喜外共著

東北帝國大學編
昭和十年
P三三二

至昭和九年
東北帝國大學一覽
昭和十年
P三三二

至昭和十年
東北帝國大學一覽
昭和十年
P三三二

日本刀講座 雄山閣編 昭和十年 東京 雄山閣 九六六

新刀鑑定 (附圖)
東山道、奥羽(刀劍鑑定新刀の三)
鑄工及町彫金工 五(小道具 三)
後藤家金工 (小道具 四)
平安朝時代の外装(外装篇 三)
日本刀の銀治順序(科學篇 六)

備中、備後、安藝、周防(刀劍鑑定)
古刀の六) 小此木忠七郎著

鑄工及町彫金工六(小道具 三)
柄の巻方 (外装篇 六)
刀劍の組紐 (外装篇 七)

圖書館研究叢書 大阪 開寶書店
第一篇 圖書館事務ノ執リ方
第二篇 圖書分類ノ論理的原則
第三篇 小圖書館管理法
第四篇 目錄編成法
第五篇 書庫ノ起原
第六篇 圖書分類
第七篇 Meijiノ分類規程
第八篇 漢字の四隅番號化檢字法
附、檢字一覽表
第九篇 圖書ト成人教育
第十篇 Dewey十進分類法導言
第十一篇 町村 學校圖書經營ノ實際
第十二篇 佛敎聖典講義大系 佛敎聖典刊行會編
佛敎聖典刊行會 東京 佛敎聖典刊行會 九三三

小倉徹右衛門著
山口簡吉著
道明新兵衛著
白大正十五
至昭和六
九七六

米、ミニ、クラック、
衛藤利夫著
今澤慈海、神納一共譯
鞠谷安太郎編
鞠谷安太郎共編
中島繁治郎共編
植松 安著
米、コリンヌ、ベイコン原著
鈴木賢祐譯
加藤宗厚譯
玉雲 五原著
間宮不二雄譯
中西喜代造譯
間宮不二雄譯
伊藤新一著
昭和九、十
植原祐義著
大野法道著
神林隆澄著
安井廣慶著
足立俊雄著
稻葉圓成著
足立俊雄著

第十八卷 正信傳數算鈔講義 梅原眞隆著

第二十卷 碧巖錄講義 上卷 今津洪毅著

第二十二卷 立正安國論講義 清水龍山著

實錄維新十傑 伊藤仁太郎(編遊)著 昭和九、十
東京 平凡社 一〇二六

第二卷 西郷南州 中卷

第三卷 同 右 下卷

第四卷 木戸孝允 上卷

第五卷 同 右 下卷

第九卷 坂本龍馬、中岡慎太郎

M三〇〇全集

會計學全集 東京 東洋出版社 昭和十
九七九

第十六卷 會計數理 久武雅夫著

映畫及劇場會計 油谷十二著

取引所會計 今井 忍著

倉庫會計 渡邊寅二著

幕末明治新聞全集 明治文化研究會編 昭和九、十
東京 大誠堂 一〇三五

第一卷 慶應より文久まで

第二卷 文久より慶應まで

第三卷 慶應四年より明治元年まで

第四卷 慶應四年より明治三年まで

第五卷 明治元年より同三年まで

吉田松陰全集 山口縣教育會編 昭和十
東京 岩波書店 九三三

第三卷 年譜

滿蒙全集 滿蒙學校出版部編 昭和九
東京 滿蒙學校出版部 一〇三〇

第一卷 滿洲建國遼原史略

滿洲國歷史講座

滿蒙地理講座

滿洲國交通講座

第二卷 滿洲國々法講座

滿洲國軍事講座

支那軍事講座

支那民情風俗講座

第三卷 滿洲國商業講座

滿洲國工業講座

滿洲國鑛產講座

滿蒙水産講座

第四卷 滿洲農業講座

滿蒙家畜畜産講座

滿洲林業講座

第五卷 滿洲國金融財政講座

滿洲移民民講座

滿洲衛生講座

精神訓練講座

蒙古語講座

M五五〇 戰役記念寫眞帖

撮國土官 旅順戰闘寫眞帖 小川一眞出版部編 明治三九
東京 小川一眞出版部

A七七

A七八

2293

歐米諸大家 日露戦役外國畫帖

小川一眞出版部編 明治三八
東京 小川一眞出版部

▲七三
▲七三〇

第一二三輯

日露戦役海軍寫眞帖

市岡大次郎編 明治三八
東京 小川一眞出版部

▲七三
▲七三三

M六二〇 辭書一國語

大辭典 下中編三郎編 昭和十
東京 平凡社

六八一四

第九卷 ツナーケント

洋書ノ部

1. ENGLISH BOOKS.

(A050. Navy)

Jellicoe, Earl-The Submarine Peril: The Admiralty Policy in 1917. London, 1934. 8985

(A201. Administration of the Navy)

His Majesty's Stationery Office-The King's Regulations and Admiralty Instructions for the Government of His Majesty's Naval Service. Vol. II 1933. London, 1934. P309

(A441. Fuel)

Cross, Roy-A Handbook of Petroleum Asphalt and Natural Gas. (Bulletin No. 25) Kansas City, 1931. 8967
Nash, Alfred W. & Howes, Donald A.-The

Principles of Motor Fuel Preparation & Application Vol. I. London, 1934. 9014 & 9015

(B420. Diesel Engine)

Morrison, L. H. & Burdick, F. A.-Diesel Engineering Handbook: Formerly the Diesel Power Plant Handbook. N. Y., 1934. 8991
Shepherd, Harold F.-Diesel Engine Design. N. Y., 1935. 9029

(B460. Internal Combustion Engine)

Malet, V. I.-Internal-Combustion Engine: Theory and Design. N. Y., 1933. 8035

(G330. Aerial Training)

Bullock, C. D.-Royal Air Force Drill and Ceremonial. London, 1934. 8996

(G650. Physical Drill)

Admiralty-Royal Navy and Royal Marine Sports Handbook 1935. London, 1934. 8993

(E210. Problems about the War-General)

Gooch, G. P. & Temperley, Harold-British Documents on the Origins of the War 1898-1914. Vol. IX The Balkan Wars: Part II League and Turkey. London, 1934. 9017

- (H220. Year Book)
 Grey, C. G. & Bridgman, Leonard-Jane's
 All the World's Aircraft 1934. London,
 1933. P311 & P315
 Marquis, Albert Nelson-Who's who in
 America. A Biographical Dictionary of
 Notable Living Men and Women of the
 United States. Vol. 18 1934-1935 Two
 Years. Chicago, 1934. P307
 Robinson, Charles N. & Ross, H. M.-
 Brassey's Naval and Shipping Annual 1935.
 London, 1934. P312 & P313
- (J210. Physics-General)
 Jamieson, Andrew-Hydraulics, Hydraulic
 and Refrigerating Machinery (A Text-
 Book of Applied Mechanics and Mechanical
 Engineering Vol. IV) London, 1929. 9025
 Searle, G. F. G.-Experimental Physics: A
 Selection of Experiments. Cambridge,
 1934. 9013
- (J211. Dynamics)
 Angus, Robert W.-Hydraulics for Engineers:
 Including Turbines and Pumps and Unsteady
 Motion. London, 1931. 9021
- (J212. Aerodynamics)
- Durand, William Frederick-Aerodynamic
 Theory: A General Review of Progress
 Under a Grant of the Guggenheim Fund
 for the Promotion of Aeronautics. Vol. I
 Berlin, 1934. S366
 Durand, William Frederick-Aerodynamic
 Theory: A General Review of Progress
 Under a Grant of the Guggenheim Fund
 for the Promotion of Aeronautics. Vol. II
 Berlin, 1935. 9013
- (J216. Heat)
 Eyring, J. A.-Thermodynamics for
 Engineers. Cambridge, 1920. 9020
- (J218. Sound)
 Eason, Alec B.-The Prevention of Vibration
 & Noise. (Oxford Technical Publications)
 London, 1923. 9026
- (J224. Metals)
 American Institute of Steel Construction-
 Steel Construction. A Manual for Architects,
 Engineers and Fabricators of Buildings and
 Other Steel Structures. N. Y., 1934. S997
- (J300. Engineering-General)
 Cole, E. B.-The Theory of Vibrations for
 Engineers. An Intermediate Course. London,

2295

- | | | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------|
| 1935.
Grandall, Irving B.-Theory of Vibrating Systems and Sound. London, 1927. | 9007 | 9023 |
| (J301. Annual Meeting & Etc.)
Dunstan, A. E. & Sell, George-World Petroleum Congress Organised by the Institution of Petroleum Technologists Held at the Imperial College of Science and Technology South Kensington, London, July 19th-25th, 1933.
Vol. II Refining, Chemical and Testing Section.
London, 1934. | 8994 | 9024 |
| Thomas, P. W.-The Institution of Engineers and Shipbuilders in Scotland. TRANSACTIONS Vol. LXXVII. Glasgow, 1934. | 9049 | 9002 |
| (J302. Civil Engineering)
Cunningham, Brysson-A Treatise on the Principles and Practical of Dock Engineering. London, 1922.
Jameson, Alex H.-Advanced Surveying: A Text-Book for Students. London, 1934. | 9011 | 9016 |
| (J310. Mechanical-Engineering)
Bradford, Louis J. & Eaton, Paul B.- | 9012 | 9003 |
| | 9027 | 9004 |
| | 9005 | 9028 |
| (J313. Clock, Watch)
Britten, F. W.-Horological Hints and Helps. London, 1934. | 9019 | |
| (J315. Machinery)
Corse, W. W.-Bearing Metals and Bearings. N. Y., 1930. | | |
| (J320. Electrical Engineering-General)
Russell, H. E.-Riveting and Arc Welding | | |
| Machine Design. N. Y., 1934.
Faires, Virgil Moring-Design of Machine Elements. N. Y., 1934.
Ford, Joseph W.-Compressor Theory and Practice with Special Reference to the Multi-Stage Machine. London, 1933.
His Majesty's Stationery Office-Textbook of Mechanical Engineering. London, 1935.
Marks, Edward G. R.-The Construction of Cranes and Other Lifting Machinery. London, 1904.
Tuplin, W. A.-Torsional Vibration: Elementary Theory and Design Calculations. London, 1934.
Wilda, Hermann-The Design of Cranes and Hoists. (The Broadway Engineering Handbooks Vol. VI) London, 1925. | | |

- | | | | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|
| <p>in Ship Construction. N. Y., 1934.
(M540. Language)
Webster, Noah & Others-Webster's
Condensed Dictionary A Condensed
Dictionary of the English Language, etc...
N. Y., 1884.</p> | 8983 | <p>im Krieg. Berlin, 1935.
(X100. Die Militärische Miscellen, Die Marine, Die
Aeronautik)
Poturzyn, A. D. Fischer V. und Dressel,
August-Jündens und die Weltluftfahrt:
Ein Beitrag zur Entstehungsgeschichte
deutscher Luftgeltung 1909-1933. München,
1934.</p> | 2061 |
| <p>(X000. Die Kriegswissenschaft)
Dertzen, K. L.-Rüstung und Abrüstung:
Eine Umschau über das Heer und
Kriegswesen aller Länder. Berlin, 1934.
Hanslian, Rudolf-Der deutsche Gassenshiff
bei Ypern am 22. April 1915. Berlin, 1934.
Heigl, Fritz-Heigl's Taschenbuch der Tanks:
Teil I Wesen der Panzerkraftfahrzeuge
Panzererkennungsdiens A-F. München,
1935.
Meyer, Julius-Der Gaskampf und die
chemischen Kampfstoffe (Chemie und
Technik der Gegenwart IV. Band) Leipzig,
1925.
Wirth, Fritz und Muntsch, Otto-Die
Gefahren der Luft und ihre Bekämpfung
im täglichen Leben, in der Technik und</p> | 2062
2054
2056 | <p>(X400. Die Finanz, Die Wirtschaft, Die Industrie,
Die Statistik)
Briefs, Goetz-Betriebsführung und
Betriebsleben in der Industrie: Zur
Soziologie und Sozialpsychologie
des modernen Grossbetriebs in der
Industrie Berlin, 1934.
Frenz, Gustav und Gobbers, Emil-
Erfolgreiche Betriebswirtschaft
Betriebsführer und Gefolgschaft im
Arbeitsprozess. Berlin, 1934.
Heidenger, Sepp-Warum bauen wir so teuer?
ÖKW-Veröffentlichung 9. Wien, 1934.
Renesse, H.-Die Deutsche Weltstoffnormung
DIN. Berlin, 1933.
(X600. Die Wissenschaft)
Bleich, Friedrich-Die Berechnung statisch</p> | 2058
2059
2057
2063
2030 |

- | | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| unbestimmter Tragwerke nach der Methode
des Viermomentensatzes. Berlin, 1925. | 2049 |
| Conrad, Fritz-Astronomische Ortsbestimmung
und Kinnhöfenmessung auf See. Berlin,
1933. | 2046 |
| Fuchs, R. Hopf, L. und Seewald, Fr.-
Aerodynamik. Berlin, 1934. | 2048 |
| Pfeiderer, Ernst-Dampfkesselschäden ihre
Ursachen, Verhütung und Nutzung für die
Weiterentwicklung. Berlin, 1934. | 2055 |

海軍公報

第二千四百七十九號

海軍大臣官房

昭和十年六月五日(水)

○通牒

官房第二四七二號

昭和十年六月五日

海軍省副官

海軍省
則及
例

關係各廳長殿

祕露國港灣ニ於ケル外國軍艦入港及

碇泊規則ニ關スル件通知

本件ニ關シ左記ノ通外務省ヨリ通牒有之候

記

外國軍艦及軍用航空機ノ祕露國港灣ニ

於ケル訪問及碇泊規則

(一九三四年十一月十三日發布)

共和國大統領ハ平時ニ於ケル外國艦船及軍用航空機ノ
祕露港灣及領水ノ訪問及碇泊ニ關シ規則ヲ設クルノ必
要ナルヲ思ヒ左ノ如ク發令ス

第一條 本則ニ於テ軍艦トハ通常軍艦ト稱セラルルモ

ノノミナラズ各型補助艦船ヲモ含ムモノトス
第二條 平時ニ於ケル外國軍艦及軍用航空機ノ祕露港
灣及領水ノ訪問ハ之ヲ左ノ二種ニ分ツ

(イ) 公 式

(ロ) 通 常

公式訪問トハ當該外國政府ガ外交經路ヲ經テ正式ニ
共ノ旨ヲ通告シタル場合又ハ祕露政府ノ招待ニ依ル
場合ヲ謂フ

通常訪問トハ當該外國政府ヨリ祕露政府ヘノ通告ガ
公式ナラザル場合ヲ謂フ

第三條 外國ノ元首又ハ其ノ代表者ノ座乗セル外國軍
艦他國ヘノ航海ノ途次祕露港灣ニ入港スル場合ハ祕
露政府ハ外交經路ニ依リ之ヲ知リタルトキハ直チニ
可能ナル範圍内ニ於テ之ニ對シテ行フベキ儀式及禮
式ニ關スルコトヲ決定ス

第四條 外國軍艦及軍用航空機ノ通常訪問ハ豫メ適時
外交經路ヲ經テ之ヲ通告スルヲ要シ且共和國内大港

海軍公報 第二千四百七十九號 昭和十年六月五日

五四五

灣ニ限リ入港スルコトヲ得

通告ニハ訪問スベキ軍艦及航空機ノ隻數、名稱及種類ヲ併記スベシ

軍艦ガ航空機ヲ搭載シ居ルトキモ其ノ旨通告スルヲ要ス

第五條 軍艦ガ損傷、悪天候又ハ其ノ他ノ不測ノ原因ニ依リ已ムヲ得ズ寄港又ハ滞在スル場合ニハ之ヲ訪問ト看做サズ

第六條 小灣及小港ノ訪問ハ豫メ外交經路ヲ經テ其ノ碇泊期間及訪問ノ目的ヲ具シテ許可ヲ受クベシ

二 碇泊地

(イ) 港灣官憲ハ外國軍艦ニ對シテ其ノ碇泊地ヲ指定スルノ權利ヲ有ス

港灣官憲又ハ士官碇泊中若ハ繋留中ノ外國軍艦ニ至リタルトキハ艦長ヲシテ其ノ艦ノ指定碇泊地ノ提示ヲ爲サシメ且訪問ノ目的、期間、艦長ノ氏名其ノ他必要ナル報告ヲ爲サシムベシ

若シ碇泊地ガ不都合又ハ指定外ノ箇所ナル場合ニハ艦長ニ對シテ即時移動ヲ通告スベク手續ヲ執ルベシ
(ロ) 外國軍艦ハ其ノ入港ニ當リ必ズシモ水先案内ヲ雇備スルコトヲ要セザルモ港灣規則ハ必ズ之ヲ遵守スル

ヲ要ス

(ハ) 外國軍艦港灣規則ヲ遵守セザル場合ニハ港灣官憲ハ艦長ニ對シ之ガ嚴守ヲ要求スベシ若シ之ニ從ハザルトキハ外交經路ヲ經テ即時出港ヲ要求スベシ

(ニ) 海洋監視官ガ港務部長ノ職ヲ代行スル港灣ニ於テ秘露軍艦在泊スルトキハ其ノ先任艦長ハ士官一名ヲ外國軍艦ニ派シテ其ノ碇泊地ヲ指定スベシ若シ秘露軍艦在泊スルトキハ監視官之ヲ指定スベシ

(ホ) 外國軍艦ヲ訪問スベキ港灣官憲又ハ士官ハ規則ノ嚴守ヲ通告スル爲常ニ本規則書一部ヲ携行スベシ

(ヘ) 檢疫官及軍人ノ訪問ハ外交官及領事官憲ニ先ンジテ之ヲ行フベシ

三 碇泊

三 碇泊

(イ) 外國軍艦及軍用航空機ノ碇泊期間ニハ制限ナシ
(ロ) 此ノ特權ハ必要アル場合出港前八時間ノ豫告ヲ以テ港灣官憲ニ依リ取消サルコトアルベシ

(ハ) 外國軍艦及航空機ハ港灣及領水ニ碇泊中水上警察及衛生規定ヲ遵守スルヲ要ス

四 軍艦ノ隻數

訪問ヲ爲サントスル軍艦及航空機ノ隻數ニ關シテハ制限ナシ

五 禁止事項

- 外國軍艦ハ共和國港灣及領水ニ於テ左ノ行爲ヲ爲スコトヲ禁ズ
- (イ) 陸地ノ見取圖若ハ平面圖ヲ作成シ又ハ水深測量ヲ爲スコト
- (ロ) 射撃、水雷發射、機雷敷設及照明演習並ニ軍艦ノ戰鬪教練ヲ爲スコト
- ハ 乗員ガ武裝シテ上陸スルコト
- (ニ) 搭載航空機ヲ以テ飛行スルコト
- ホ 外國潜水艦ガ港灣若ハ領水ヘ潜航シテ入港シ又ハ潜航演習ヲ行フコト
- (ヘ) 死刑ヲ執行スルコト
- (ハ) 號ヲ除クノ外前記諸禁止事項ハ外交經路ヲ經テ申請スルトキハ許可セラルルコトアルベシ
- 六 許可事項
- 共和國港灣ニ於テ外國軍艦ニ對シ許可セラルル事項左ノ如シ
- (イ) 非武裝員ノ上陸但シ其ノ數ハ港灣官憲ニ依リ制限セラルルコトアルベシ
- (ロ) 多數ノ兵員上陸スルトキハ非武裝衛兵ハ豫メ港灣官憲ノ認可ヲ經テ上陸スルコトヲ得

ハ 士官ハ帶劍シテ上陸スルコトヲ得

- (ニ) 陸上ニ於テ葬儀ヲ行ハンガ爲外國軍艦ノ指揮官ガ武裝セル分遣隊ヲ上陸セシメントスル場合ニハ地方港灣官憲ヲ通ジテ海軍省ノ認可ヲ受クベシ

七 軍用航空機

- (イ) 若シ訪問軍艦ガ艦載ナラザル航空機ヲ帶同セル場合ニハ其ノ數及機型ヲモ訪問通告中ニ記載スベシ軍艦ニ隨伴スル航空機ノ入港及出港ノ爲ノ飛行ニハ特別ノ許可ヲ要セザルモ左ノ(ロ)號一、二及三ノ事項ハ之ヲ遵守スベシ
- (ロ) 軍艦ニ隨伴スル航空機ガ其ノ到着後出港ト異ル目的ヲ以テ飛行ヲ行ハントスル場合ニハ特別許可ヲ受クベシ
- 其ノ申請ニハ左ノ諸事項ヲ記載シテ港務部長ヲ經テ之ヲ海軍省ニ提出スベシ
- 一、飛行ノ目的
- 二、飛行ヲ行ハントスル航空機ノ數及型並ニ識別シ得ベキ外部「マーク」
- 三、航空機無電呼出符號、波長及其ノ種類並ニ到達距離
- 四、飛行スベキ士官及下士官ノ數

五、飛行航路

六、着陸水スベキ飛行場及港

七、飛行月日

八、若シ既ニ爲シタル豫告ニ變更ヲ生ジタル場合ニハ適時更ニ出願ヲ爲スベシ

九、飛行實施ヲ認可セラレタル總テノ外國航空機ハ一九一九年十月十三日附國際航空條約ノ規定ヲ遵守スベキモノトス

十、禁止地帯ノ上空二千米以下ヲ飛行シ又ハ同地帯ニ着陸スルコトヲ得ズ

十一、爆發物、爆彈、寫眞機又ハ普通寫眞用若ハ活動寫眞用「フィルム」又ハ乾板ヲ携帶スルコトヲ得ズ

十二、發動機停止ノ場合ト雖モ空中滑走ニ依リテ居住地域外ニ着陸シ得ベキ高度以下ノ高度ヲ以テ居住地域ノ上空ヲ飛行スルコトヲ得ズ

十三、居住地域ノ上空ニ於テ曲乘リ飛行ヲ爲スコトヲ得ズ

八 禮 式

外國軍艦ノ指揮官ハ左ノ順序ニヨリ訪問ヲ爲スベシ

(イ) 港灣官憲 (Autoridad maritima)

(ロ) 知 事 (Prefecto) 但シ其ノ港灣ニ在任スルトキハ海軍大臣 (Ministro de marina) 但シ Cutiao 港ニ投錨スル場合ノミ

九 領 水

一、秘嶺ノ領海ハ海岸及島嶼ノ最底干潮線ヨリ三哩以内ノ海面トス

二、入江 (Bahia)、浦 (Ensenada) 及灣 (Golfo) ニ於ケル領水ハ之ヲ形成スル海岸線ト其ノ外方兩突端ヲ中心トシテ三哩ノ半徑ヲ以テ描キタル兩圓周ノ外方切線トノ間ニ包括セラルル區域トス

十 無線通信使用ニ關スル規則

我が主權下ニ在ル港灣及領水ニ碇泊スル外國軍艦ニ對シ左ノ外一般的ニ無線通信ノ制限ヲ設ケザルモ國家ハ特別ナル狀況アルトキハ之ヲ制限シ又ハ停止ヲ命ズルコトアルベシ遵守スベキ諸規定左ノ如シ

(イ) 四六〇—四八五M (六五〇—六二〇米) ノ周波ヲ以テ送信スルコトヲ得ズ但シ救助ヲ求メ又ハ之ニ應信スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

(ロ) 一九二七年華府國際條約ノ規定ニ基ク無線標識 (Radiofaro) 及無線方位探知 (Radiogonio metria) 作業ヲ妨害スル發信ヲ爲スベカラズ

<p>第一課勤務ヲ命ス 海軍少佐 佐 難 毅 海軍主計少佐 南部 忠 藏 在東京監督長ノ命ヲ承ケ服務スヘシ(以上海軍醫 務本部)</p>	<p>○同條約ノ規定ニ依リ五五〇—一三〇〇ノ周波 (五四五—二三〇米)ヲ妨害スベカラズ (二)國內民間及軍用局ガ使用スル六六七六五—七〇〇〇 ノ(四五—四二・八米)及七三〇〇—八五五〇ノ (四一—三五・二米)ノ周波發信ノ干渉ヲ爲スベカラ ズ (ホ)CANZA局ガ三六〇〇米、OBE局ガ二二〇〇米及 二三米ヲ以テ華府時間一四〇〇時ニ發信スル報時送 信ノ干渉ヲ爲スベカラズ 一九三四年二月二三日 於里馬市政廳 O. R. Benavides C. Rotalde</p>
<p>○電話架設 海軍軍醫學校長海軍軍醫少將向美弘宅(赤坂區青山南 町六ノ一四七) 青山 七七二〇番 海軍軍醫學校教頭海軍軍醫少將長田勝芳宅(世田谷區 新町三ノ四四三) 世田谷 三八一九番</p>	<p>○郵便物發送先 特務艦野島宛 六月二十四日迄ニ到達見込ノモノハ 同 二十六日迄ニ 同 七月二日迄ニ 同 同 七日迄ニ 同 其ノ後ハ 佐 世 保 西 戶 崎 横 須 賀 吳 世 保 佐 世 保</p>
<p>○事務所移轉 舞鶴海軍航空隊(假稱)設立準備委員事務所ハ本月二</p>	<p>○特務艦野島行動豫定 地名 着 發 佐 世 保 六月二十五日 六月二十五日 西 戶 崎 六月三十日 六月二十七日 横 須 賀 七月六日 七月三日 吳 世 保 七月九日 八月八日 佐 世 保</p>

○雜款

海軍公報 第二千四百七十九號 昭和十年六月五日

五四九

2303

海軍公報 第二千四百七十九號 昭和十年六月五日

日ヨリ京都府與謝郡栗田村舞鶴海軍航空隊（假稱）敷
地内ニ移轉セリ

海軍主計大佐從五位勳三等濱野春男本月一日練習
艦隊淺間ニ於テ卒去セリ

五五〇

○艦船所在

指定ヲ要セズ

○六月五日午前十時調

【横須賀】

陸奥、夕張、金剛、木曾、那珂、比叡、高松、伊弉、五十鈴、鳳翔、鳥海、那智、山城、愛宕、赤城

沖風、峯風、矢風、帆風、松風、春風、旗風、朝風、響、雷、電、漣、曉

伊有明、夕暮

伊三、伊二、伊一、伊二、伊四

富士、尻矢、知床、早瀬、鳴戸

(鈴谷)、(劍埼)

【長浦】

嚴島

潮、朧、曙、秋風、羽風、太刀風、天霧、朝霧、夕霧

呂五四、呂五五、呂五六、呂五七、呂五八、呂五九、伊五、伊六

掃六、掃五、掃一、掃三、掃二、掃四

多摩、神威

浦賀、狹霧

(時雨)

館山、澤風

大湊、波風

大泊、駒橋

釧路

【吳】

長門、矢矧、韓崎、日向、加古、勝力、天龍、扶桑、伊勢、龍驤、青葉、古鷹、衣笠、神通、長鯨

夕顔、菊、葵、初雪、白雪、綾波、浦波、敷波、東雲、磯波、吹雪

呂一七、呂一八、呂一九、呂五一、呂五三、呂六八、呂六三、呂六四、呂二八、呂二七、伊五七、伊五六、伊五八、伊五四、伊五三、伊五五

掃七、掃八、掃一〇

石廊、攝津、隱戸、朝日、室戸、間宮

(最上)、(呂三三)

尾鷲、大井

大阪、彌生、睦月、如月、卯月

神戶、(伊六九)、(伊七一)、(伊七二)

相生、迅鯨

小松島、白鷹

掃一三、掃一四、掃一五、掃一六

江田内、平戸

徳山、襟裳

長濱、大鯨

白雲、薄雲、叢雲

伊五二、伊五一、伊六八

佐伯、掃九

舞鶴、吾妻、川内

若竹、吳竹、早苗

海軍公報 第二千四百七十九號

昭和十年六月五日

五五一

呂二六
友鶴
(鴻)
【佐世保】 加賀▲、霧島、宇治、榛名、妙高、▷長良、名取、▷阿武隈、▷由良▲
梨、竹、樵、桃、柳、櫻、檜、▷長月、三日月、
▷初霜、初春、子日、若葉、▷長月、水無月、
▷阜月、文月、▷疾風、追風、朝風、夕風、
▷楡、柿
呂二五、 呂二九、 呂三〇、 呂三一、
呂三二、 呂六〇、 呂六一、 呂六二、
▷伊六五、 伊六六、 伊六七、 伊六〇、
伊五九、 伊六三、 伊六四、 伊六一▲
伊六二▲
敷島▲
(白露)、(伊七〇)

【寺島水道】▷北上、能登呂
▷呂六六、呂六五、呂六七

【長崎】▷初雁、真鶴、千鳥
▷羽黒▲、足柄、出雲
夕月、望月
(三隈)

【馬公】▷龍田
【馬公港外】▷芙蓉、朝顔、刈萱、▷蓮、葵、蓬
【尾崎灣】▷常磐、八重山
【旅順】▷藤、萩、葛、薄

【青島】 球磨
【上海】 ▷安宅、熱海
【南京】 鳥羽
【九江】 梅
【漢口】 磐手、對馬
浦風、栗馬
長沙 二見
宜昌 比良
重慶 堅田
馬尾 灘風
廈門 沙風、夕風
汕頭 島風
廣東 嵯峨
【阿比阿】▷淺間、八雲
【作業地】▷沼風、野風、神風
膠州

【航海中】
佐多 (五月十五日佐世保發—羅府へ)
洲崎 (五月二十日作業地發—「ホノルル」へ)
保津、勢多 (二日宜昌發—重慶へ)
春日 (三日横須賀發—「バラオ」へ)
草、菱、董 (三日鎮海發—尾崎灣へ)
野島 (三日佐世保發—馬公へ)
鶴見 (三日佐世保發—横須賀へ)
青島 (三日旅順發—鎮海へ)
鬼怒 (四日竹葉發—舞鶴へ)
伊二一、伊二二 (四日吳發—豊後水道へ)

(部内限二頁)

海軍公報

第二千四百八十號

海軍大臣官房

昭和十年六月六日(木)

○通牒

官房第二四九二號

昭和十年六月六日

海軍省副官

關係各廳御中

職員錄原稿ノ件照會

昭和十年七月一日現在職員錄發行ノ爲原稿調製方内閣印刷局長ヨリ照會有之候ニ付テハ貴廳ニ係ル分左記ニ依リ調製ノ上期日迄ニ御送付相成度

記

- 一、昭和十年七月一日現在ヲ以テ判任官以上及之ニ準スル公務員ヲ録スルコト
- 一、七月一日現在職員錄ニハ氏名ノ上ニ附シタル官職名前行ニ同シキト雖モ「同」ノ字ヲ用ヒス
- 一、高等官ノ氏名中讀方ノ特ニ困難ナルモノニ限り振リ假名ヲ附スルコト

- 一、勳等ノ下(旭)ハ旭日章、其註ナキハ瑞寶章ナルコト
- 一、在京官廳ノ課長以上ノ職ニ在ル者及各省秘書官並ニ勅任官ハ住所及電話ヲ記入スルコト
- 一、地方所在ノ各廳ニ在勤スル勅任官ニシテ長タル官職ニ在ル者ニハ住所及電話ヲ附記スルコト
- 一、判任文官ニシテ現ニ俸給令改正前ノ一級俸、二級俸及四級俸ヲ受クル者ハ各一△月一四八、二△月一二七、四△月九七ト記載スルコト
- 一、用紙ハ美濃羅和紙ニシテ一人一行トシ決シテ二段三段ニ記セサルコト
- 一、各學校勤務ノ下士官ハ省略ノコト
- 一、字體ハ楷書ニテ明瞭ニ記シ特ニ氏名ハ注意ノコト
- 一、其ノ他一般編纂ノ體裁ハ前年職員錄ノ例ニヨル尙
- 一、昭和三年海人第九八號(昭和三年五月三十一日海軍公報)參照ノコト
- 一、原稿到達ノ期日 七月五日

海軍公報 第二千四百八十號 昭和十年六月六日

五五三

○ 雜 報

○司令驅逐艦變更
第二十三驅逐隊司令ハ五月二十日司令驅逐艦ヲ一時菊月ヨリ夕月ニ變更セリ

○軍艦能登呂行動豫定

地名	着	發
佐世保	六月三日	六月三日
富江	六月九日	六月九日
鹿兒島灣	六月九日	六月九日
佐伯	六月十二日	六月十一日
別府	六月十二日	六月十二日
佐世保	六月十五日	六月十四日

○郵便物發送先
軍艦能登呂宛

六月七日迄ニ到達見込ノモノハ	佐世保海軍航空隊氣付
同 十日迄ニ	鹿兒島
同 十三日迄ニ	大分縣別府
其ノ後ハ	佐世保

○事務所設置
特務艦劍埼艦裝員事務所ヲ横須賀海軍工廠内ニ設置シ

本月一日ヨリ事務ヲ開始セリ

○正誤

昨六日辭令欄中「(以上)海軍艦政本部」ハ「(以上)海軍航空本部」ノ誤

○艦船所在

指定ヲ要セズ

○六月六日午前十時調

【横須賀】

陸奥、夕張▲金剛▲、木曾、▽那珂、比叡、那智、口山城、五十鈴、▽鳳翔、口鳥海、高雄、摩耶、愛宕、▽赤城

沖風、峯風、矢風、▽松風、春風、旗風、朝風、▽響、雷、電、▽漣、曉、▽有明、夕暮

▽伊二三▲、伊二四▲、▽伊三、伊一、伊二、伊四

富士▲、尻矢、知床、早柄、鳴戸

(鈴谷)、(劍埼)

【長浦】▽嚴島

▽潮、朧、曙、▽秋風、羽風、太刀風、帆風、▽天霧、朝霧、夕霧

▽呂五四、呂五五、呂五六、▽呂五七、呂五八、呂五九、▽伊五、伊六

▽掃六、掃五、掃一、掃三、掃二、掃四

▽多摩▲、神威▲

【浦賀】

狹霧

【館山】

澤風▲

【天津】

大井

【大湊】

大泊

【劍路】

駒橋

長門▲、矢矧、韓崎、日向▲、加古、勝力、天龍、扶桑、▽伊勢、龍驤、▽青葉、古鷹、衣笠、▽神通、長鯨

▽夕顔、菊、葵、▽初雪、白雪、▽綾波▲、浦波、敷波▲、▽東雲、磯波、吹雪

▽呂一七、呂一八、呂一九、呂五一、呂五三、▽呂六八、呂六三、呂六四、▽呂二八、呂二七、▽伊五七、伊五六、伊五八、▽伊五四、伊五三、伊五五

掃七、掃八、掃九、掃一○

石廊、攝津、隱戸、朝日、室戸、間宮

(最上)、(呂三三)

【大阪】▽彌生、睦月、如月、卯月

【神戸】(伊六九)、(伊七一)、(伊七二)

【相生】迅鯨

【小松島】▽白鷹

▽掃一三、掃一四、掃一五、掃一六

【江田内】平戸

【長濱】大鯨

▽白雲、薄雲、叢雲

▽伊五二、伊五一、伊六八

【舞鶴】吾妻▲、川内、鬼怒

▽若竹、吳竹、早苗

海軍公報 第二千四百八十號 昭和十年六月六日

五五五

<p>【佐世保】 加賀、霧島、宇治、榛名、妙高、長良、名取、阿武隈、由良、梨、榊、桃、柳、櫻、檜、菊月、三日月、初霜、初春、子日、若葉、長月、水無月、皐月、文月、疾風、追風、朝風、夕風、楡、柿</p> <p>呂二五、呂二九、呂三〇、呂三一、呂三二、呂六〇、呂六一、呂六二、伊六五、伊六六、伊六七、伊六〇、伊五九、伊六三、伊六四、伊六一、敷島▲</p> <p>(白露)、(伊七〇)</p> <p>【寺島水道】 北上</p> <p>呂六六、呂六五、呂六七</p> <p>【富江】 能登呂</p> <p>【長崎】 羽黒、足柄、出雲、夕月、望月</p> <p>(三隈)</p> <p>【馬公】 龍田</p> <p>【馬公港外】 芙蓉、朝顔、刈萱、蓮、蓼、蓬</p> <p>【鎮海】 青島</p> <p>【尾崎灣】 常磐、八重山</p>	<p>【旅順】 葦、菱、董、藤、萩、葛、薄</p> <p>【青島】 球磨</p> <p>【上海】 安宅、熱海</p> <p>【南京】 鳥羽</p> <p>【九江】 梅</p> <p>【漢口】 磐手、對馬、浦風、栗</p> <p>【長沙】 二見</p> <p>【宜昌】 比良</p> <p>【重慶】 保津、勢多、堅田</p> <p>【馬尾】 灘風</p> <p>【廈門】 沙風、夕風</p> <p>【汕頭】 島風</p> <p>【廣東】 嵯峨</p> <p>【作業地】 淀、膠州</p> <p>【航海中】 沼風、野風、神風、波風</p> <p>佐多 (五月十五日佐世保發—羅府へ)</p> <p>洲崎 (五月二十日作業地發—ホノルルへ)</p> <p>春日 (三日横須賀發—バラオへ)</p> <p>野島 (三日佐世保發—馬公へ)</p> <p>鶴見 (三日佐世保發—横須賀へ)</p> <p>伊二一、伊二二 (四日吳發—豊後水道へ)</p> <p>伊二一、伊二二 (五日アビア發—ホノルルへ)</p> <p>襟裳 (六日徳山發—佐世保へ)</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(部内限二頁)

海軍公報

第二千四百八十一號

海軍大臣官房

昭和十年六月七日(金)

○通牒

官房第二四八七號

昭和十年六月六日

海軍省副官

海軍諸例
則登載

關係各廳長殿

伊國港灣及錨地ニ於ケル外國軍艦碇泊

許可規則ニ關スル件通知

本件ニ關シ左記ノ通外務省ヨリ通牒有之候

記

平時伊本國、「エーゲ」海屬領及植民地ノ

港灣及錨地ニ於ケル外國軍艦碇泊許可規則

(一九三三年八月二四日勅令第二四二三號)

(一九三四年五月二二日
伊國官報第一二〇號掲載)

第一條 本令ハ平時本國、「エーゲ」海屬領及植民地ノ

港灣及錨地ニ於ケル非交戰國ノ軍艦ノ寄港ニ關スル

モノトス

第二條 軍艦トハ通常「軍艦」ト稱セラルルモノノミ

ナラズ軍艦旗ヲ掲揚シテ國ノ勤務ニ服スル船舶ヲモ

含ムモノトス

第三條 外國軍艦ハ平時ニ在リテハ常ニ本國、「エー

ゲ」海屬領及植民地ノ港灣ヲ訪問シ且低潮線ヨリ六

哩ノ距離以内ノ領海ニ於テ碇泊スルコトヲ得但シ同

一國家ニ屬スル軍艦ノ隻數ガ本規則第六條ニ於テ本

國、「エーゲ」海屬領及植民地ノ海岸線ヲ區劃スル

各海區ニ付三隻ヲ超エザルコトヲ要ス

前記ノ訪問ヲ爲スベキ旨ノ通知ハ通常ノ外交機關ヲ

通ジテ之ヲ行フコトヲ要シ出來得ル限リ其ノ通知ハ

豫定訪問期日ヨリ少クトモ七日前ニ到達スルヲ要ス

前記ノ軍艦ハ港灣及領海ニ於テ八日ヲ超ユル期間滯

在スルコトヲ得ズ又如何ナル場合ニ於テモ海軍官憲

ノ請求アルトキハ其ノ通知ヨリ六時間以内ニ沖合ニ

出ヅベシ前記ノ滯在期間ヲ終了セザルトキト雖モ亦

同ジ

本條第一項ニ掲グル隻數ヲ超ユル軍艦ヨリ成ル外國艦隊ガ寄港セントスルトキハ海事官憲ハ當該指揮官ヲシテ所定ノ隻數ヲ超過スル軍艦ヲ離隔セシムル爲直ニ前記ノ規定ヲ之ニ通知スベシ

第四條 前條ニ規定セル外國軍艦ノ最大隻數及滞在期間ニ關スル制限ハ止ムヲ得ザル滞在ノ場合又ハ外交機關ヲ經テ王國政府ニ要請スベキ正式許可ニ依ルニ非ザレバ之ヲ超ユルコトヲ得ズ

第五條 前諸條ノ規定ハ左ノ軍艦ニハ之ヲ適用セズ
イ) 國家ノ元首、當代王朝ノ一族及其ノ隨員又ハ伊王國駐劄外交官ノ搭乘スル軍艦

ロ) 海損、天候不良又ハ豫測セザル其ノ他ノ原因ニヨリ止ムヲ得ズ滞在スル軍艦

ハ) 條約ニ依リ王國政府ノ許可セル海面ノ監視勤務ニ従事スル軍艦

第六條 本規定ノ適用ニ付テハ本國、「エーゲ」海屬領及植民地ノ海岸線ハ之ヲ左ノ七海區ニ分ツ

「アドリヤ」海第一海區

國境ヨリ S. Maria di Leuca ニ至ル但シ Zara 及伊國所屬「アドリヤ」海島嶼ヲ含ム

「イオニヤ」海第二海區

S. Maria di Leuca ヨリ半島ノ Scilla ニ至リ又 Peloro 岬ヨリ東南「シチリヤ」島海岸ニ向ヒ Lilibeo 岬ニ至ル

「ティレニヤ」海第三海區

國境ヨリ Peloro 岬及 Scilla ニ至ル但シ Lilibeo 岬ニ至ル「シチリヤ」島ノ北海岸並ニ「ティレニヤ」海及「シチリヤ」島ノ伊領島嶼全部ヲ含ム

「エーゲ」海第四海區

「トリポリタニヤ」及「チレナイカ」ヲ包括スル第五海區

「エリトレヤ」ヲ包括スル第六海區

「ソマリヤ」ヲ包括スル第七海區

第七條 軍港、海岸要塞若ハ海軍根據地又ハ海軍司令部ノ存在セザル本國、「エーゲ」海屬領又ハ植民地ノ港灣若ハ碇泊所ニ來着スル外國軍艦ニ對シテハ海事官憲投錨位置ヲ指定スルモノトス

艦ガ既ニ投錨セル場合ニハ官憲ハ其ノ儘投錨位置ニ在ルコトヲ承認シ又ハ港灣ノ航行若ハ勤務ニ妨害アリト認ムルトキハ他ノ位置ヲ之ニ指定スルコトヲ得海軍官憲又ハ港務官憲ノ慣例的儀禮ヲ委任セラレタル海軍士官又ハ港務官ハ檢疫手續終了後情報接受ノ

爲本則添附ノ申告書様式一通ヲ艦長ニ交付シ記入署名ノ上之ヲ提出セシム尙心得ノ爲同艦長ニ本則ノ寫一通ヲ交付スルヲ要ス

水陸自由交通禁止ノ場合ニ於テハ前記ノ士官ハ艦長又ハ艦隊指揮官ニ本令ノ寫ヲ交付スルニ止マリ同艦長又ハ指揮官ハ必要ナル豫防規定ヲ遵守ノ上軍醫官又ハ其ノ他ノ自己ノ代表者ヲ地方衛生部ヘ派遣シテ申告書作成ニ要スル表示事項ヲ提供シ又艦ノ受クベキ防疫上ノ取扱ノ通知ヲ接受スルヲ要ス

第八條 外國軍艦ハ軍港、海岸要塞若ハ海軍根據地ノ限界内ニ於ケル錨地ニ到達シ又ハ之ヨリ出發スル場合ニ於テ地方海軍官憲ノ要請アルトキハ同官憲ガ特ニ派遣セル士官一名又ハ其ノ他ノ代表者一名ノ水路嚮導ヲ承諾シ又指定セラルベキ錨地出入航路ニ關スル同官憲ノ指示ニ服従スルヲ要ス其ノ勤務ハ無料トシ軍艦ガ蒙ムルコトアルベキ損害ニ付テハ王國政府及其ノ臣民ハ何等ノ責任ヲ負ハズ且同勤務ハ同艦ガ規定ノ信號ニ依リ要請スル水先案内又ハ土地ノ特別ノ狀況ニ依ル強制水先案内勤務トハ全然別個ノモノトス

軍港 La Spezia, La Maddalena, Taranto, Brindisi, Venezia 及 Pola
海岸要塞 Messina
海軍根據地 Porto Tago (「トーゲ」海屬領 Lero 島) Tobruk (亞弗利加領 (Irenica))
前記ノ各軍港、海岸要塞及海軍根據地ト各當該錨地ニ寄港スル禮砲ヲ施行シ得ベキ外國軍艦トノ間ニ於テハ禮砲ノ交換ヲ行フベキモノトス Napoli, Zara, Tripoli 及 Messina ノ諸錨地並ニ本國「エーゲ」海屬領及植民地ノ其ノ他ノ一切ノ錨地ニシテ答砲ヲナシ得ベキ王國軍艦一隻ノ存在スル場合亦同ジ
各軍港、海岸要塞及海軍根據地ニ於テハ一造營物ニ午前八時ヨリ日沒迄國旗ヲ掲揚ス但シ軍艦ガ視界内ニアリテ航行中ナルトキハ國旗ヲ識別シ得ル限り、又視界内ノ軍艦ガ展開セル旗章ヲ掲揚セルトキハ常ニ前記時間外ト雖モ一時的ニ國旗ヲ掲揚ス

第九條 其ノ都度指定スベキ領海ノ或ル地點ニ於ケル通過又ハ滞留ハ國防上之ヲ外國軍艦ニ禁止スルコトヲ得
前記ノ一時又ハ恒久禁止ハ航海ニ關スル水路告示ノ

海軍公報 第二千四百八十一號 昭和十年六月七日

方式ヲ以テ之ヲ公示スルヲ要ス「セマンオア」信號所、信號所及前記地點ノ近傍ニ在ル王國軍艦ハ萬國信號法ヲ以テ附近ヲ通過スル外國軍艦ニ之ヲ通知スルヲ要ス

第十條 港灣又ハ領海ニ碇泊スル外國軍艦ハ法律竝ニ稅務、警察及衛生ニ關スル諸規則ヲ尊重スルヲ要ス又王國艦船ノ服從スル總テノ地方法規モ亦之ヲ遵守スルヲ要ス之ガ爲メ地方海軍官憲ハ總テノ必要ナル情報ヲ外國軍艦ノ指揮官ニ與フルモノトス

第十一條 外國軍艦及之ニ隨伴スル航空機ニシテ本國、「エーゲ」海屬領及植民地ノ軍港、海岸要塞及海軍根據地ノ海面又ハ之ニ接近セル錨地ニ在リテ其ノ無線電信機又ハ無線電話機ヲ使用スルニハ豫メ制式、送信ニ於テ使用スベキ波長及使用時間制ヲ軍港、要塞又ハ港灣ノ司令部ニ通知ノ上之ニ關スル許可ヲ受クルヲ要ス

第十二條 外國軍艦及之ニ隨伴スル航空機ニシテ軍港、海岸要塞又ハ海軍根據地ニ接近セザル本國、「エーゲ」海屬領及植民地ノ港灣ニ在ルトキハ左ノ規定ヲ遵守スルヲ要ス
(イ) 救助信號又ハ之ガ應答ノ外波長六〇〇米ノ送信ヲ

禁ズ

(ロ) 移動固定ノ王國無線電信所ノ送信トノ干渉及「ラデオ」放送ニ對スル干渉又ハ妨害ヲ禁ズ

(ハ) 送信ハ海軍官憲、港務官憲又ハ固定無線電信所ノ要請アルトキハ之ヲ停止スルヲ要ス

(ニ) 不衰弱波ナラザル送信裝置ヲ以テスル長時間ニ亘ル送信ヲ避クルヲ要ス

(ホ) 王國軍艦在港スルトキハ豫メ其ノ高級指揮官ニ照會スルヲ要ス

第十三條 領海内ニ在ル外國軍艦ハ土地ノ測量ヲナシ、水深測量作業ヲ行ヒ、許可ナクシテ兵員上陸演習シ又ハ射撃、魚雷發射若ハ水雷敷設等ノ練習ヲ施行スルコトヲ得ズ

海軍官憲又ハ其ノ代表者ニ豫告セズシテ水中作業ヲ行フコトヲ得ズ

第十四條 外國軍艦ニ搭載セラレ又ハ其ノ護送若ハ曳航スル航空機ハ特別ノ許可ナクシテ領海内ニ於テ飛行上昇スルコトヲ得ズ

第十五條 港灣ニ碇泊ヲ許可セラレタル潜水艦ハ其ノ滯在全期間中水上ニ在ルヲ要シ許可ナクシテ潜航ヲ行フコトヲ禁ズ當該潜水艦ハ其ノ發着ノ際及領海ノ

全區域ニ亘リ如何ナル場合ニ於テモ水上航行スルヲ要ス

第十六條 外國軍艦ハ地方軍事官憲又ハ之ナキトキハ港務官憲ニ豫メ許可ヲ要請シタル上ニ非ザレバ教練、巡邏、警戒、葬儀其ノ他ノ理由ニ依リ乗組員又ハ乗艦セル軍隊ノ武裝セル兵員ヲ陸上ニ派遣スルコトヲ得ズ

上陸シ得ル兵員數、上陸及歸艦ノ様式並ニ時刻等ハ他ノ國家ノ軍艦ノ存在ヲ考慮ノ上當該外國軍艦ノ指揮官ト地方文官及武官トノ間ニ之ヲ協定スルモノトス

港灣又ハ領海内ヲ往來スル短艇ハ武裝スルコトヲ得ズ

死刑ハ領海内ニ於テハ之ヲ執行スルコトヲ得ズ

第十七條 他ノ國家間ニ於ケル戰爭ニ際シ伊國ガ中立ノ場合共ノ港灣及領海ニ付テハ之ニ關スル現行條約、法律及其ノ他ノ海上法規ヲ遵守ス

第十八條 本規定ノ遵守ノ監督ハ地方海軍官憲又ハ之ナキトキハ港務官憲及陸上軍事官憲ニ屬ス

違反又ハ拒絶ノ場合ニ於テ本令ニ包含セララルル規定ヲ嚴守セシムルニ付外國軍艦ノ注意ヲ喚起スルハ右

官憲ノ義務トス固執又ハ通知遵守拒絶ノ場合ニ於テ

ハ地方海軍官憲ハ外國軍艦指揮官ニ正式ノ抗議ヲ提出シタル後主務鎮守府又ハ當該外國軍艦ノ存在スル管區ノ獨立司令部及海軍省ニ此ノ旨ヲ至急電報ヲ以テ通報スベシ但シ通報官憲ガ陸軍ナルトキハ軍團司令部及陸軍省ヘモ通報スルモノトス「エーゲ」海屬領及植民地ニ於テハ前項ノ通報ハ速ニ關係總督ニ之ヲ爲スベク同總督ハ此ノ旨ヲ中央官憲ニ報告スベキモノトス

第十九條 一九二二年五月二八日勅令第八六〇號及爾後之ヲ改正シタル一九二三年三月二九日勅令第八九九號、一九二四年七月一〇日勅令第一二五六號ハ之ヲ廢止ス
(終)

附錄

本國、「エーゲ」海屬領及植民地ノ港灣及

錨地ニ於ケル外國軍艦ノ到着申告書

指揮官ハ左記ノ事項ヲ本紙中ニ記入スルモノトス

- 一、艦ノ國籍
- 二、艦名及型
- 三、砲熗(數及口徑)
- 四、水中武裝(數及性能)

五、航空機(數及性能)
 六、指揮官ノ氏名及官階
 七、乗員數
 八、便乗者數
 九、衛生狀態
 十、來航地
 十一、目的地
 十二、錨地滞在豫定期間
 十三、寄港ノ理由
 十四、貨物ノ種類(運送船ノ場合)

一九 年 月 日 於 (指揮官署名)

査閱 *

* 海軍官憲、港務官憲若ハ地方陸上軍事官憲ノ氏名
 (原文)
 Costituito di arrivo per le navi da guerra estere nei
 porti ed ancoraggi dello Stato, dei possedimenti
 dell' Egeo e delle Colonie.
 Si prega il Comandante di far iscrivere nel

presente foglio le informazioni che vi sono richieste.

1. Nazionalità della nave
2. Nome o tipo della nave
3. Artiglierie (numero e calibro)
4. Armamento subacqueo (numero e qualità)
5. Apparecchi aerei (numero e qualità)
6. Nome e grado del comandante
7. Forza dell'equipaggio
8. Numero dei passeggeri
9. Stato sanitario
10. Provenienza
11. Destinazione
12. Durata presunta della permanenza all'ancoraggio
13. Motivo dell'approdo
14. Specie del carico (nel caso di navi onerarie)

Dato a 19
 (firma del Comandante).
 Visto: il (1)
 (1) Indicare l'autorità militare marittima, di porto o
 militare terrestre locale.

艦本第六九四九號

昭和十年六月六日

海軍艦政本部

關係各應御中

識別章ノ件通知

海軍造船學生、同造機學生及同造兵學生ヲシテ毎年夏期工廠ニテ實習セシメ居候處其ノ間艦船部隊ニ到ル機會屢ナルモ其ノ服裝ハ帝國大學學生ノ制服又ハ作業服ニシテ海軍技術學生タルコト判然セズ艦船部隊側ニ於ケル取締ニモ不便アルヤニ認メラレ候ニ付爾今左記様式ノ識別章ヲ左腕ニ着用セシムルコトト致候條了知相成度

記

臺地黒色「クレバネット」ニ白絨ニテ「海軍技術學生」ト表示セル腕章トシ鳩目紐締又ハ「ビジヨウ」締トス

○辭令

海軍中尉 飯島 正義

軍令部ニ於ケル事變關係編纂事務囑託ヲ解ク(五二二) (海軍省)

第一課勤務ヲ命ス(前海軍省軍需局)

海軍中佐 村上 房三

海軍共濟組合出納主任ヲ命ス(前海軍艦政本部長)

海軍主計少佐 南部 忠藏

○雜款

○命名式舉行

來六月十四日(金)午前十時神戸在泊大井艦上ニ於テ左記報國號兵器ノ命名式ヲ舉行セラル

記

兵器等種類 報國號 獻納者

十三耗 聯裝機銃 機銃報國第三十五號 (川崎號) 株式會社川崎造船所 川崎造船所健康保險組合 從業員

内 火 艇 丙火艇報國第二號 (澤田號) 大阪市 澤田 久吉

聯裝投射機 投射機報國第九號 (一萬人號) 愛媛縣有志者

(海軍省副官)

○司令潜水艦變更 第七潜水隊司令ハ本月一日司令潜水艦ヲ伊號第三潜水艦ヨリ伊號第二潜水艦ニ變更セリ

○事務所設置
鹿屋(假稱)海軍航空隊設立準備事務所ヲ佐世保鎮守府ニ置キ五月三十日ヨリ事務ヲ開始セリ

○事務所移轉
第二十八潜水隊事務ハ伊號第六十潜水艦ニ、第二十九潜水隊事務ハ伊號第六十四潜水艦ニ於テ孰モ執務ス

○正誤 誤
本月三日本欄職務代理中「海軍主計少佐 長井基治」ハ「海軍主計少佐 永井基治」ノ誤

○艦船所在

▲印(ハハハ)指定ヲ要セズ

○六月七日午前十時調

【横須賀】

陸奥、夕張▲金剛▲木曾、▽那珂、比叡、那智、口山城、五十鈴、▽鳳翔、口鳥海、高雄、摩耶、愛宕、▽赤城、沖風、峯風、矢風、▽松風、春風、旗風、朝風、▽響、雷、電、▽漣、曉、▽有明、夕暮、伊二三▲、伊二四▲、▽伊三、伊一、伊二、伊四

富士▲、尻矢、知床、早鞆、鳴戸、鶴見(鈴谷)、(劍埼)

【長浦】

▽殿島、▽潮、隴、曙、▽秋風、羽風、太刀風、帆風、▽天霧、朝霧、夕霧、呂五四、呂五五、呂五六、▽呂五七、呂五八、呂五九、▽伊五、伊六、▽掃六、掃五、掃一、掃三、掃二、掃四

【横濱】

▽多摩▲、神威▲

【浦賀】

狭霧

【館山】

(時雨) 澤風▲

【津】

大井

【大湊】

大泊

【釧路】

駒橋

【大泊】

吳 ▲、長門▲、矢矧、韓崎、日向▲、加古、勝力、▽天龍、扶桑、▽伊勢、龍驤、▽青葉、古鷹、衣笠、▽神通、長鯨、▽夕顔、菊、葵、▽初雪、白雪、▽綾波▲、浦波、敷波▲、▽東雲、磯波、吹雪、呂一七、呂一八、呂一九、呂五一、呂五三、▽呂六八、呂六三、呂六四、▽呂二八、呂二七、▽伊二一、伊二二、▽伊五七、伊五六、伊五八、▽伊五四、伊五三、伊五五、掃七、掃八、掃九、掃一○、石廊、攝津、隱戸、朝日、室戸、間宮(最上)、(呂三三)

【大阪】

▽彌生、睦月、如月、卯月

【神戸】

(伊六九)、(伊七一)、(伊七二)

【相生】

迅鯨

【江田内】

平戸

【長濱】

大鯨、▽白雲、薄雲、叢雲、▽伊五二、伊五一、伊六八

【舞鶴】

吾妻▲、川内、鬼怒、▽若竹、吳竹、早苗、呂二六

海軍公報 第二千四百八十一號 昭和十年六月七日

五六五

友鶴

(鴻)

【佐世保】

加賀▲霧島、宇治、榛名、▽長良、名取、
▽阿武隈、▽由良

梨、竹、榎、桃、柳、櫻、柏、▽菊月、三日月、
▽初霜、初春、子日、若葉、▽長月、水無月、
卓月、文月、▽疾風、追風、朝風、夕風、

▽楡、柿

呂二五、 呂二九、 呂三〇、 呂三一、

呂三二、 呂六〇、 呂六一、 呂六二、

▽伊六五、 伊六六、 伊六七、 伊六〇、

伊五九、 伊六三、 伊六四、 伊六一、

伊六二

敷島▲襟裳

(白露)、(伊七〇)

【富江】

▽北上、妙高、能登呂
▽呂六六、呂六五、呂六七

▽初雁、真鶴、千鳥

【長崎】

▽羽黒▲足柄、出雲
▽夕月、望月
(三隈)

【馬公】

龍田

▽芙蓉、朝顔、刈萱、▽蓮▲蓬▲蓼

【鎮海】

青島
▽尾崎灣】▽常磐、八重山

▽葦、菱、菫

【旅順】

▽藤、萩、葛、薄

【青島】

球磨

【上海】

▽安宅、熱海

【南京】

鳥羽

【九江】

梅

【漢口】

磐手、對馬

【長沙】

二見

【宜昌】

比良

【重慶】

▽保津、勢多、壘田

【馬尾】

灘風

【廈門】

▽沙風、夕風

【汕頭】

島風

【廣東】

嵯峨

【作業地】

▽沼風、野風、神風、波風
膠州

【航海中】

佐多 (五月十五日佐世保發「羅府」)

洲崎

(五月二十日作業地發「ホノルル」)

春日

(三日横須賀發「バラオ」)

野島

(三日佐世保發「馬公」)

浦風 (七日漢口發「南京」)

小松島發「椿泊」

淺間、八雲 (五日「アピア」發「ホノルル」)

白鷹、▽掃一三、掃一四、掃一五、掃一六 (七日)

(部内限一頁)